

令和6年県民歯科疾患状況調査結果の概要

1. 調査の概要

1) 調査の目的

県民の歯科保健の向上を図るため、県民の歯科疾患の有病状況を把握し、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な基礎資料を得ることを目的とする。

2) 調査の対象

20 歳以上の県民

3) 調査方法

令和 6 年 5 月 1 日～31 日に歯科診療所を受診した患者

4) 調査内容

(1) 歯磨きの状況

(2) 現在歯数（8020 達成者等）

(3) う蝕の状況

(4) 歯周病の状況

2. 調査結果の概要

1) 被調査者数

男性が 608 名、女性が 710 名であった。

2) 歯磨きの状況

毎日 2 回以上歯を磨く者の割合は増加を続けており、令和 6 年では 84.7%であった。

3) 現在歯数（8020 達成者等）

1 人平均現在歯数は全体で 24.8 本であった。また、80 歳以上で自分の歯を 20 本以上有する者の割合は 46.5%、60 歳で自分の歯を 24 本以上有する者の割合は 75.1%であった。

4) う蝕の状況

1 人平均 DMF 歯数は、20～30 歳代で 8.9 本、40～50 歳代で 15.3 本、60 歳代以上で 20.0 本であった。

5) 歯周病の状況

4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合は、20～30 歳代で 45.9%、40～50 歳代で 63.6%、60 歳代以上で 67.7%であった。

歯肉出血を有する者の割合は、20～30 歳代で 61.3%、40～50 歳代で 69.0%、60 歳代以上で 63.8%であった。

3. 調査結果

1) 被調査者数

表 1. 被調査者数及び割合（年齢階級別・性別）

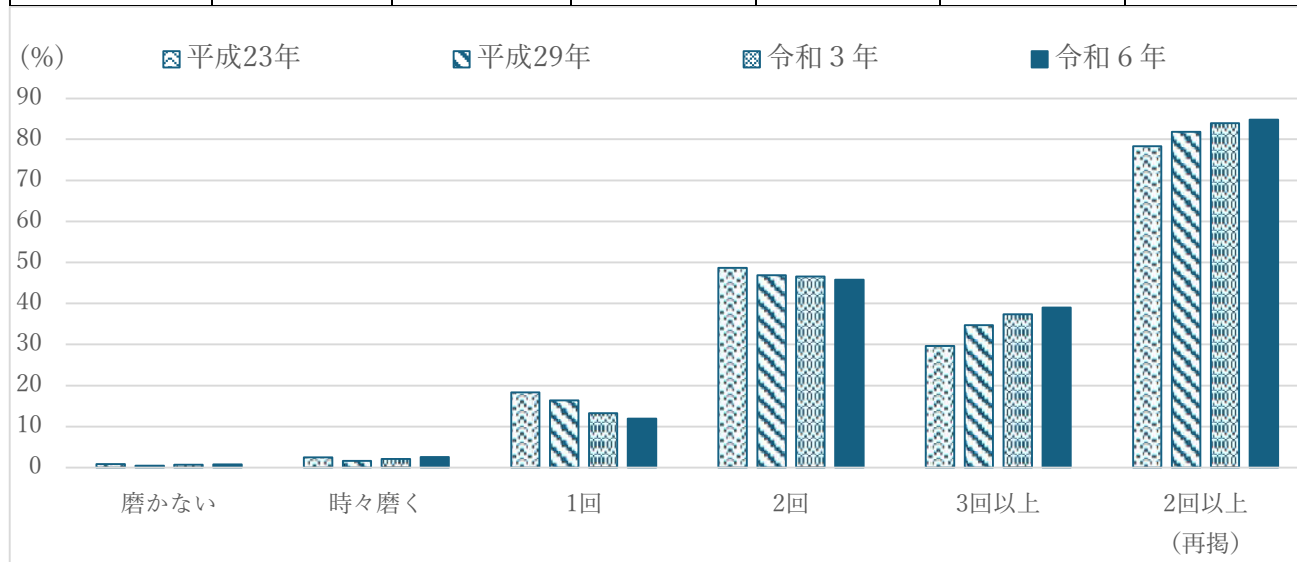
年齢階級 (歳)	人数 (人)			割合 (%)		
	男性	女性	合計	男性	女性	合計
20～24	33	37	70	2.5	2.8	5.3
25～29	43	48	91	3.3	3.6	6.9
30～34	42	42	84	3.2	3.2	6.4
35～39	38	48	86	2.9	3.6	6.5
40～44	48	46	94	3.6	3.5	7.1
45～49	53	59	112	4.0	4.5	8.5
50～54	50	53	103	3.8	4.0	7.8
55～59	49	65	114	3.7	4.9	8.6
60～64	47	60	107	3.6	4.6	8.1
65～69	49	60	109	3.7	4.6	8.3
70～74	49	69	118	3.7	5.2	9.0
75～79	54	59	113	4.1	4.5	8.6
80～	53	64	117	4.0	4.9	8.9
計	608	710	1318	46.1	53.9	100.0

2) 歯磨きの状況

毎日2回以上歯を磨く者の割合は増加を続けており、令和6年では84.7%であった(図表2)。

図表2. 1日の歯磨き回数の年次推移

調査年	磨かない	時々磨く	1回	2回	3回以上	2回以上 (再掲)
平成23年	0.9	2.5	18.3	48.7	29.6	78.3
平成29年	0.5	1.6	16.4	46.9	34.7	81.8
令和3年	0.7	2.1	13.3	46.6	37.4	83.9
令和6年	0.8	2.6	11.9	45.8	39.0	84.7



3) 現在歯数（8020 達成者等）

20、24 本以上の自分の歯を有する者の割合は、前回調査（令和 3 年）と比較して全年齢階級で一貫した増減の傾向は認められなかった（図表 3、図表 4）。

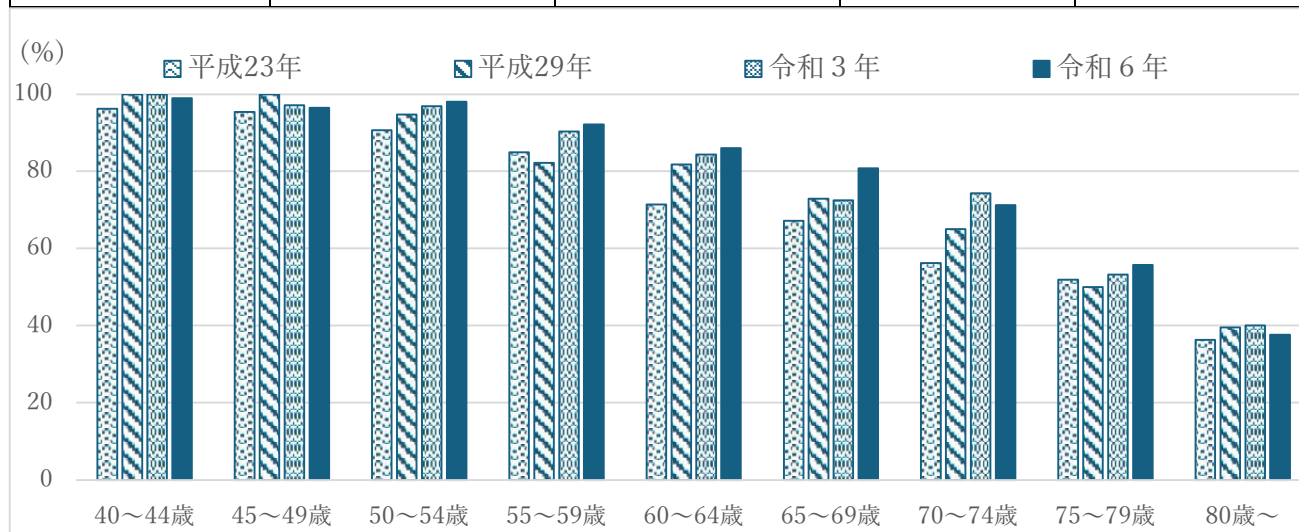
8020 達成者（80 歳で 20 本以上の自分の歯を有する者）の割合は、46.5%と前回調査（46.6%）とほぼ同じであった（図表 3）。

6024 達成者（60 歳で 24 本以上の自分の歯を有する者）の割合は、75.1%と前回調査（72.7%）と比較して増加した（図表 4）。

1 人平均現在歯数は、40 歳代では前回調査とほぼ同じであったが、50 歳代以上では一部の年齢階級を除いて増加した（図表 5）。

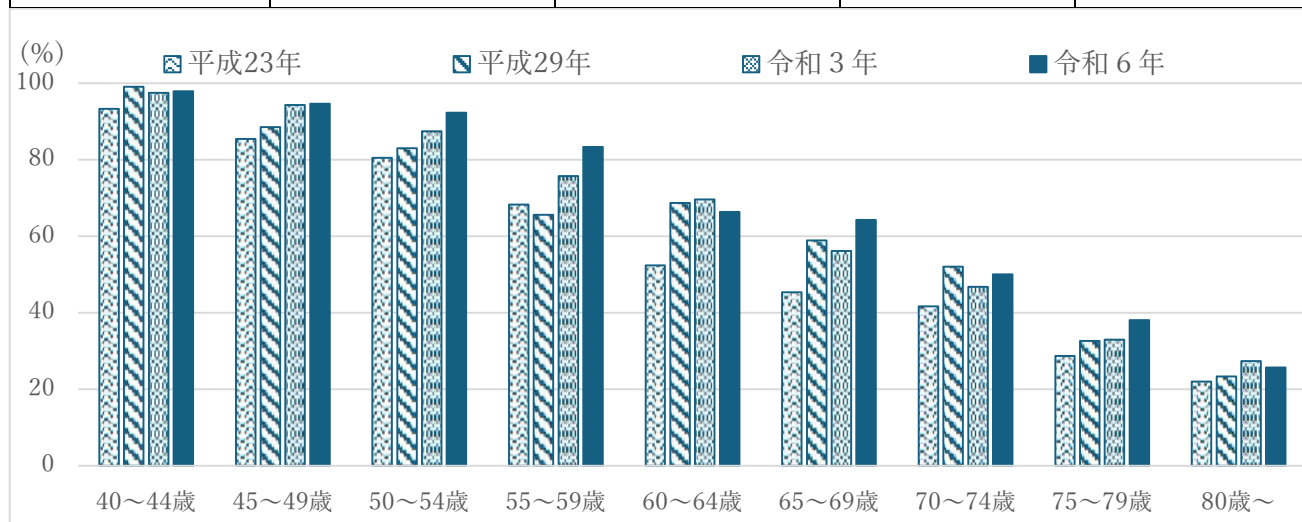
図表 3. 20 本以上の自分の歯を有する者の割合の年次推移

年齢階級 (歳)	20 本以上の自分の歯を有する者の割合 (%)			
	平成 23 年	平成 29 年	令和 3 年	令和 6 年
40～44	96.2	100.0	100.0	98.9
45～49	95.4	100.0	97.1	96.4
50～54	90.6	94.7	96.8	98.1
55～59	84.9	82.2	90.3	92.1
60～64	71.4	81.8	84.3	86.0
65～69	67.2	72.9	72.4	80.7
70～74	56.2	65.0	74.3	71.2
75～79	51.9	50.0	53.2	55.8
80～	36.3	39.5	40.0	37.6
80	45.5	44.9	46.6	46.5



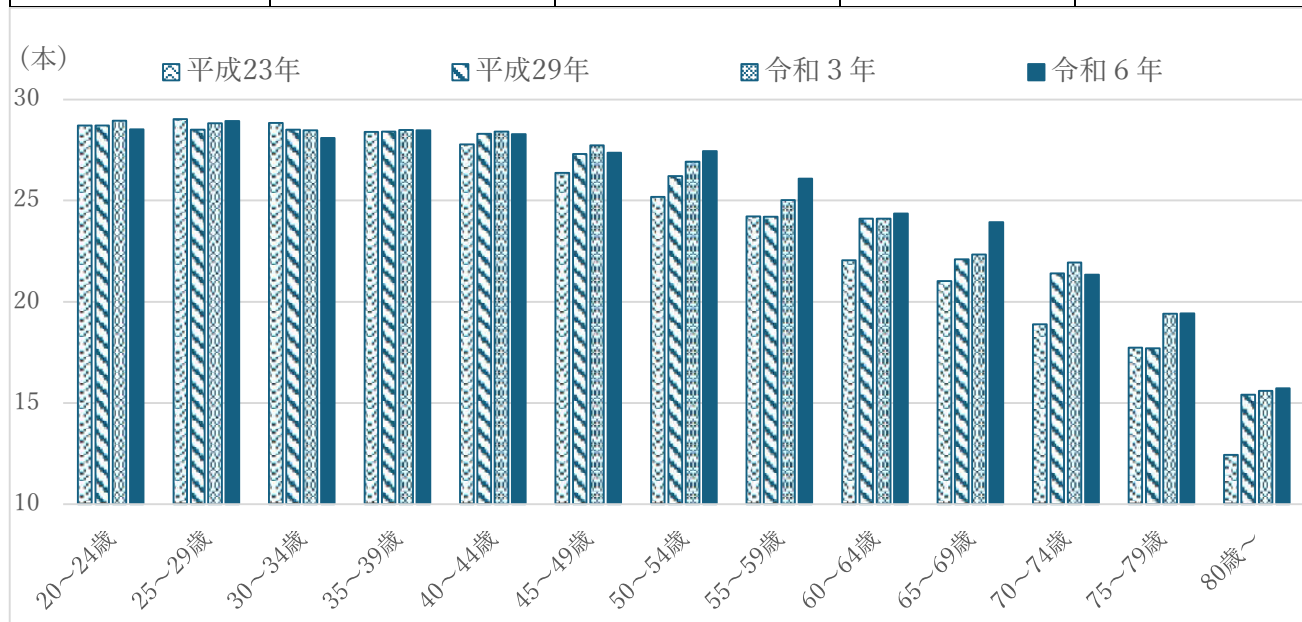
図表 4. 24 本以上の自分の歯を有する者の割合の年次推移

年齢階級 (歳)	20 本以上の自分の歯を有する者の割合 (%)			
	平成 23 年	平成 29 年	令和 3 年	令和 6 年
40～44	93.2	99.0	97.4	97.9
45～49	85.4	88.5	94.3	94.6
50～54	80.5	83.0	87.4	92.2
55～59	68.3	65.6	75.7	83.3
60～64	52.4	68.7	69.6	66.4
65～69	45.3	58.9	56.1	64.2
70～74	41.6	52.0	46.8	50.0
75～79	28.7	32.6	33.0	38.1
80～	22.0	23.3	27.4	25.6
60 (55～64)	59.7	67.2	72.7	75.1



図表 5. 1 人平均現在歯数の年次推移

年齢階級 (歳)	1 人平均現在歯数 (本)			
	平成 23 年	平成 29 年	令和 3 年	令和 6 年
20～24	28.7	28.7	28.9	28.5
25～29	29.0	28.5	28.8	28.9
30～34	28.8	28.5	28.5	28.1
35～39	28.4	28.4	28.5	28.5
40～44	27.8	28.3	28.4	28.3
45～49	26.4	27.3	27.7	27.4
50～54	25.2	26.2	26.9	27.4
55～59	24.2	24.2	25.0	26.1
60～64	22.1	24.1	24.1	24.4
65～69	21.0	22.1	22.3	23.9
70～74	18.9	21.4	21.9	21.3
75～79	17.7	17.7	19.4	19.4
80～	12.4	15.4	15.6	15.7



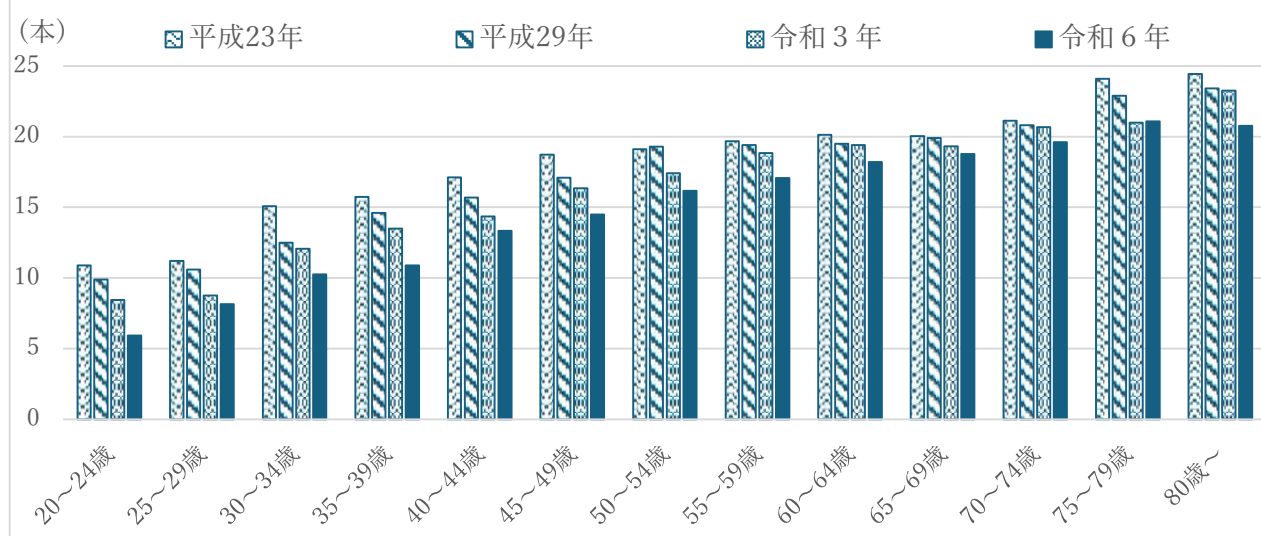
4) う蝕の状況

1人平均 DMF 歯数は、20～30 歳代で 8.9 本、40～50 歳代で 15.3 本、60 歳代以上で 20.0 本であった。過去の調査と比較すると、概ね全年齢階級で減少傾向を示した（図表 6）。

未処置歯を有する者の割合は、加齢とともに増減するような一貫した傾向は認められなかった。根面う蝕を有する者の割合は、50 歳代以上で比較的高い傾向であった（図表 7）。

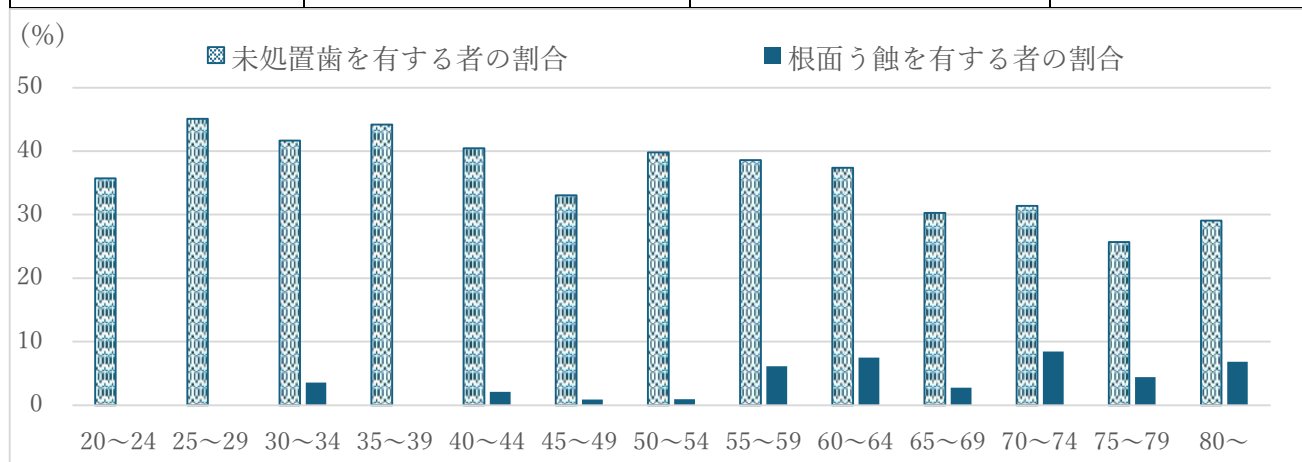
図表 6. 1 人平均 DMF 歯数の年次推移

年齢階級 (歳)	1 人平均 DMF 歯数 (本)			
	平成 23 年	平成 29 年	令和 3 年	令和 6 年
20～24	10.9	9.9	8.4	5.9
25～29	11.2	10.6	8.8	8.2
30～34	15.1	12.5	12.1	10.3
35～39	15.7	14.6	13.5	10.9
40～44	17.1	15.7	14.4	13.3
45～49	18.7	17.1	16.3	14.5
50～54	19.1	19.3	17.4	16.2
55～59	19.7	19.4	18.8	17.1
60～64	20.1	19.5	19.4	18.2
65～69	20.0	19.9	19.3	18.8
70～74	21.1	20.8	20.7	19.6
75～79	24.1	22.9	21.0	21.1
80～	24.4	23.4	23.2	20.8



図表 7. 未処置歯を有する者の割合

年齢階級 (歳)	割合 (%)		
	未処置歯を有する者		未処置歯を 持たない者
	総数	根面う蝕を有する者	
20～24	35.7	0.0	64.3
25～29	45.1	0.0	54.9
30～34	41.7	3.6	58.3
35～39	44.2	0.0	55.8
40～44	40.4	2.1	59.6
45～49	33.0	0.9	67.0
50～54	39.8	1.0	60.2
55～59	38.6	6.1	61.4
60～64	37.4	7.5	62.6
65～69	30.3	2.8	69.7
70～74	31.4	8.5	68.6
75～79	25.7	4.4	74.3
80～	29.1	6.8	70.9



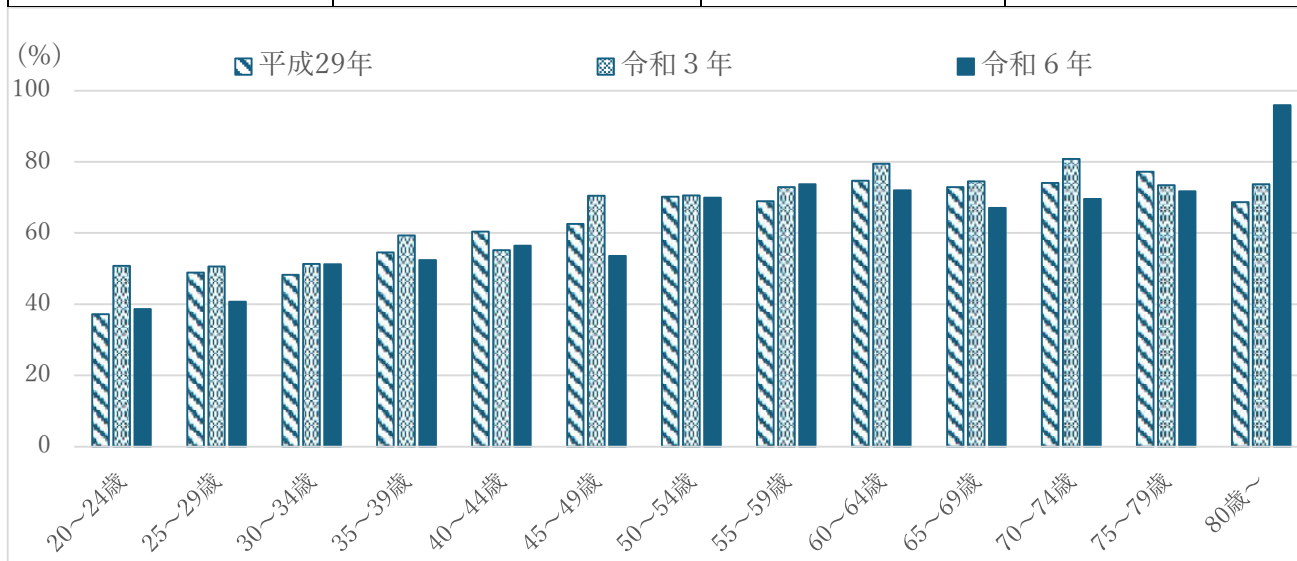
5) 歯周病の状況

4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合は、20～30 歳代で 45.9%、40～50 歳代で 63.6%、60 歳代以上で 67.7%であった。前回調査と比較すると、20～30 歳代では減少していたが、40 歳代以上では、一貫した増減の傾向は認められなかった（図表 8）。

歯肉出血を有する者の割合は、20～30 歳代では前回調査と比較して減少していたが、40 歳代以上では、一貫した増減の傾向は認められなかった（図表 9）。

図表 8. 4 mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合の年次推移

年齢階級 (歳)	4mm 以上の歯周ポケットを有する者の割合 (%)		
	平成 29 年	令和 3 年	令和 6 年
20～24	37.2	50.7	38.6
25～29	48.9	50.6	40.7
30～34	48.2	51.3	51.2
35～39	54.5	59.3	52.3
40～44	60.4	55.1	56.4
45～49	62.5	70.5	53.6
50～54	70.2	70.5	69.9
55～59	68.9	72.8	73.7
60～64	74.7	79.4	72.0
65～69	72.9	74.5	67.0
70～74	74.0	80.7	69.5
75～79	77.2	73.4	71.7
80～	68.6	73.7	95.8



図表 9. 歯肉出血を有する者の割合の年次推移

年齢階級 (歳)	歯肉出血を有する者		
	平成 29 年	令和 3 年	令和 6 年
20～24	85.1	62.0	58.6
25～29	68.3	68.2	60.4
30～34	70.6	65.0	64.3
35～39	62.5	67.9	61.6
40～44	72.9	61.5	68.1
45～49	72.9	73.3	67.9
50～54	71.3	68.4	68.0
55～59	75.6	71.8	71.9
60～64	81.8	74.5	70.1
65～69	80.4	68.4	65.1
70～74	76.0	69.7	57.6
75～79	77.2	66.0	67.3
80～	68.6	68.4	97.2

